

プロジェクトリーダーと振り返る 第8回アフリカWeeks

5月13日から28日まで、「第8回上智大学アフリカWeeks」が開催された。本学では、国際社会でより一層存在感を増すアフリカを本学のグローバル化推進の戦略的地域と位置付け、アフリカ開発銀行や現地教育機関との連携協定締結、アフリカ研究の推進など、教育・研究交流を活発に展開している。今回のアフリカWeeksでは、公募で集まった学生有志が司会や通訳補助などを務め、講演会やセミナーなどの企画をサポートした。

アフリカ地域の研究者であり、各企画を主導し成功に導いたSophia Future Design Platform推進室の山崎瑛莉氏と、学生リーダーとして企画の取りまとめに尽力した稲川翔子さん(総グ4)と太田珠々さん(法地3)にアフリカWeeksを振り返ってもらった。



アフリカ外交団から感謝状を受け取る暁道学長(24日、2024アフリカ・デー記念講演会にて)



日本とアフリカの若者が未来に向け議論(27日、AFRI CONVERSE 2024 in Sophia)



SFDP推進室
University Education
Administrator
山崎 瑛莉氏

本学のアフリカWeeksは学生をはじめアフリカに関心がある方々と、アフリカ出身の方や関係する人たちの豊かな出会いの場を創出することで、アフリカに関心をもち、さらに行動するきっかけとなる機会とすることを目的に開催しています。

今年、アフリカ・デーを共催した在京アフリカ外交団、国際機関、民間、NGOなどさまざまなアクターの方々との協働と、学生の主体的な参加を促すことで、アフリカが従来からもつ多様性や、若者の活躍を中心とした今後の可能性を感じられるものとするを強く意識しました。これは、本学のアフリカWeeksを、多層的・多様な学びを実現するものとして位置付けていることにもよります。

実施後は、「上智大学における幅広いアフリカ研究や活動を知ることができた」(高校生・在学生)という感想や、「アフリカの可能性に期待する若者の関心の高さが伺えた」(外交団・国際機関)といった声をいただきました。

本学では、アフリカを研究領域に含める研究者ネットワーク形成により、さらに多様な切り口で研究・教育できる体制構築を進めています。また、来年は第9回アフリカ開発会議(TICAD9)を控えることから、アフリカへの関心もさらに高まっています。今後のアフリカWeeksも、これらの展開のさらなる可能性を切り開いていける企画にしていきたいと考えています。



総合グローバル学部
総合グローバル学科4年
稲川 翔子さん

大学4年目で新しいことを始めたいと思い参加を決めました。さまざまな企画が同時進行で動いていたので、企画の進捗やメンバーの状態を把握するのは大変でしたが、アフリカの自由と闊達さを感じ、楽しく活動させていただきました。アフリカは今まで何も知らなかった人でも、知ればハマっていける魅力のある地域だと思えます。この経験を活かし、まず今夏のアフリカ渡航と、同地域との自分の関わり方を考えようと思っています。



法学部
地球環境法学科3年
太田 珠々さん

自身がアフリカ(コートジボワール)に渡航した際感じた「アフリカの楽しさ・可能性」を多くの人と共有したいと考え、本イベントに参加しました。アフリカと一言でいっても多様な文化・背景があり、アフリカWeeksで伝える「アフリカ」が一面的なものになっていないか、気をつけていました。そして今回、自分が知らないアフリカがまだまだあるんだと実感しました。今後も知り合えた仲間とともにアフリカについて学び続けます。

公式ウェブサイトにてアフリカWeeksイベントレポート掲載中



SUP 上智大学出版 新刊紹介



『エチオピアの歴史を変えた女性たちの肖像』
テケステ・ネガシュ【著】
眞城百華、石原美奈子【共訳】
(2200円+税)

ぎょうせいオンラインショップ、
全国主要書店
および紀伊國屋
書店上智大学店
で販売中。



ぎょうせいオンラインショップはこちら

ソフィアの視点

「よい就活は、 学びを止めない」

学生総務担当副学長 永井 敦子



現在日本は、深刻な人材不足に悩んでいます。それでも就職活動が早期化する背景には、優秀な人材の確保が急務な雇用者側の焦りがあるのでしょう。就職活動が大学での学びの時間を奪わないよう、政財界には一定の歯止めをかけていただきたいですが、雇用も国際化する現在、国内規制が人材の国外流出の要因となる不安もあるのでしょうか。こうした現状で大学での学びと就職活動を両立させるには、どうすればよいのでしょうか。

現在、3年次の夏期休暇中のインターンシップを希望すれば、その選考が行われる3年次の春学期には、事実上就職活動が始まります。つまりこの時期にはすでに、自分が大学で何を学び、その目的ややりがいがあるのかを、自分の言葉で説明できなくてはなりません。本学では入学時から専門とする学科を選択しますし、同時に学部横断的に参加できる多様な教育プログラムもあるので、初年次からそうした学びの環境を、好奇心と主体性をもって活用していただきたいです。

次に多くの学生が熱心に就職活動に取り組む3年次の秋からの数ヶ月はどうでしょう。最近は終身雇用のイメージを持って就職するより、近い将来の起業や海外での就労も視野に入れつつ社会に出る学生も少なくないようです。目前の就職がひとつの通過点であるなら、より広い視野からつねに自分の価値観や世界観を問い、自分を育て続けなくてはならないはずです。

そして就職活動が終われば卒業研究や卒業論文の仕上げが待っていますが、同時に就活後に空いた時間をアルバイトにあて、その対価を卒業前の活動資金や新生活の準備にあてる学生も目立ちます。もちろんそれ自体悪いことではありませんが、社会人になった途端に自信喪失に陥らないためには、この時期、自分の強みを伸ばし、弱みを補うための自己への投資も必要でしょう。

こう考えると、卒業要件科目の修了や企業からの内定獲得だけをゴールとしない、未知の世界や考えかたとの出会いを、人間や社会のより深い理解と行動の選択につなげてゆくための学びは、すでに大学入学時から始まっていることに気づきます。むしろ大学時代こそ、つねにそうした学びを止めないための術を体得する、重要な時期ではないでしょうか。

学生の皆さんがいつか自分の人生を振り返ったとき、仕事を通して少しでも社会をよくできた、他の人に寄り添えたという実感が持てることを、心から願っています。

6月17日~21日留学フェア開催 最新の留学情報に ふれる1週間

グローバル教育センターでは、6月17日から21日までの5日間、留学フェアを開催する。留学に興味・関心のある学生や既に留学が決定している学生まで幅広く参加を呼びかけ、留学に関するさまざまな情報を提供する。

期間中は、昼休みの時間帯に6号館の教室で対面形式の日替わりセッションを実施する。週前半は、留学制度説明、留学カウンセラーおよび英語学習アドバイザーによる事前準備講座やTOEFLの説明、大学の留学制度を利用した学生の体験談、協定校からの外国人留学生の自大学紹介、留学と就職活動に関するセッションを行う。

後半は、留学制度を活用した学生による座談会を予定。世界各地で交換留



昨年の経験者座談会の様子

学やインターンシップ科目に参加した学生たちが登壇して、在学生からの質問に自らの経験を生かして答えていく予定だ。また、6号館1階の智恵の樹前広場でポスター展示を行う。

フェア担当者は、「多方面からの情報が一度に手に入ることに加え、留学経験者の生の声を聞くことが出来るこの機会に、留学に少しでも興味のある学生にぜひ足を運んでほしい」と話す。会場や詳細は、LOYOLA掲示板などで確認できる。問い合わせは2号館1階グローバル教育センターへ。

留学フェアセッションスケジュール (予定)

日程	時間	内容
6/17(月)		留学制度概要説明 留学カウンセラー・英語学習アドバイザーによる、留学への準備とTOEFLについて
6/18(火)	12:45-13:20	交換留学について知ろう!~協定校からの留学生や留学を経験した先輩学生の声~
6/19(水)		留学と就職活動
6/20(木)		交換留学・インターンシップ経験者との座談会①
6/21(金)		交換留学・インターンシップ経験者との座談会②

※最新のスケジュール・会場等は LOYOLA 掲示板でご確認ください